

《硬膜外麻酔を用いた和痛分娩 説明・同意文書》

医) 産科・婦人科 みずとりクリニック

1. 目的

陣痛の痛みを和らげ、不安を軽減することによって、リラックスした「和痛分娩」を経験していただくために「硬膜外麻酔」を用います。

2. 硬膜外麻酔とは

脊髄を覆っている硬膜の外に細いチューブを留置し、局所麻酔薬と麻薬系鎮痛薬を注入します。

参考：硬膜・くも膜を通して脊柱管に薬剤を入れる脊椎麻酔は主として帝王切開術の際に行っています。

3. 効果と特徴

硬膜外麻酔チューブを背中に入れておなかより下の痛みをコントロールします。痛みを消すこともできますが、そうすると陣痛も弱まってしまいますので、「月経痛ぐらいの痛み」を目標にして麻酔薬をコントロールします。ある程度触っている感覚や圧迫感は残り、意識はクリアです。

4. お受けいただける方

当初は経産婦さんで前日からの入院の上、基本的には麻酔科認定医が硬膜外麻酔チューブを挿入します。

麻酔チューブ挿入の翌日に計画分娩として分娩誘発を行います。

妊娠35週までに硬膜外麻酔を用いた和痛分娩を希望する意思をお伝えください。

外来で妊娠後期検査（妊娠35週4日～36週6日に行います）に追加して心電図と胸部・腹部単純X線検査（他医療機関に依頼します）をお受けいただきます。

その時点で希望するかどうか確実でなくとも、可能性がある場合は検査をお受けください。

5. お受けいただけない方

- ・上記検査をお受けいただけない方
- ・穿刺困難（姿勢の保持困難・脊椎の変形や手術歴があるなど）の方
- ・凝固・止血異常（抗凝固薬使用中、検査値の異常など）の方
- ・穿刺部位（背中・腰）の感染、全身性の感染 などの方
- ・神経変性疾患 などの方
- ・その他（難産既往歴等 医師が不適切と判断した場合）の方

いずれにしてもペチロルファン筋注による和痛分娩は随時、お受けいただけますのでご安心下さい。

また、分娩の安全性を保つために、母体または胎児の状態によっては、当院医師の判断により、硬膜外麻酔を中止し、ペチロルファン筋注による和痛分娩へ変更する場合や、緊急帝王切開術へ移行する場合があります。

《硬膜外麻酔を用いた和痛分娩 説明・同意文書》

医) 産科・婦人科 みずとりクリニック

6. 副作用およびリスク

以下の合併症が起こることがあります。合併症が起こった場合には適切に対応しますが、入院期間が延長することなどがあります。

- ・低血圧・嘔気や嘔吐、胎児の一過性徐脈：予防のために、麻酔前に点滴を行います。
- ・過強陣痛：子宮の収縮を和らげる薬を使います。
- ・微弱陣痛：児を押し出す力が弱くなり、吸引分娩が必要となる場合があります。
- ・分娩中の発熱：感染が否定できない場合には抗菌薬治療を行うことがあります。
- ・頭痛：麻酔が原因の頭痛の多くは数日～1週間で軽快します。
- ・背部痛：針を刺した部位の痛みがしばらく気になることがあります。
まれに背中に感染がおこり、腫れや痛みを起こすことがあります。
- ・全脊椎麻酔・局所麻酔薬中毒：(耳鳴り、金属味、口周囲の違和感、意識レベルの変化、痙攣など)

当院では薬液の注入はスタッフが行います。慎重に少量ずつ薬液を注入することによってこれらを防ぐように努めます。

7. 実施の実際

- ・前日の11時ごろに入院していただき、先にシャワーを浴びていただきます。
- ・午後2時ごろに手術室またはLDR室に入室していただき、硬膜外麻酔チューブを挿入・留置します。
- ・硬膜外麻酔チューブの確認が終了したら3階ゲストルームでその日は過ごしてもらいます。
- ・翌日朝より再度硬膜外麻酔チューブの確認をした後に、子宮頸管熟化度に応じて、頸管熟化処置・分娩誘発を行います。
- ・薬剤注入時には酸素飽和度モニター装置と胎児心拍・陣痛モニタリング装置を連続装着します。
- ・投与の可否やタイミングは、分娩の進行状況や母体・胎児の状態に基づき、医師が判断します。

8. 計画分娩について

安全な分娩のために、硬膜外麻酔を用いた無痛分娩は日中の計画分娩で行なうことを原則とします。

計画分娩とは、予め入院日を決めて分娩誘発を行なうことです。

軟産道の熟化状態を予測して実施日を決めます。

人員がある日中に分娩することで、異常や合併症に対して対応することができ、安全性が高まります。

6. 費用について

①硬膜外麻酔を用いた和痛分娩は自費診療となります(1回につき約12万円)。

分娩の進行状況により、薬剤追加料、和痛管理料が別途加算される場合があります。

(料金等は随時変更の可能性があります。)

②硬膜外麻酔を用いた和痛分娩希望ではない方(麻酔前検査と同意書の説明を妊娠中に受けていない方)が陣痛開始後に和痛分娩をご希望された場合は「ペチロルファンを用いた和痛分娩」を行います。

7. 同意について

- ・本書の内容を理解し、ご自身の意思に基づいて同意された場合に限り行います。
- ・ご不明な点がある場合は、医師または助産師にご相談ください。

《硬膜外麻酔を用いた和痛分娩 説明・同意文書》

医) 産科・婦人科 みずとりクリニック

【同意書】

上記の医師： _____ の説明を受け、その内容・予想されるリスク・合併症を理解・納得のうえ、「硬膜外麻酔を用いた和痛分娩」に同意し、実施を希望します。

合併症などが起きた場合にはその対応に協力します。

状況によっては希望しても硬膜外麻酔が使用できないことがある点も了承します。

年月日：令和 年 月 日

妊婦氏名（署名）： ID： _____ 氏名： _____